

2020年度 上期決算説明会

2020/11/10

 不二製油グループ本社株式会社

目次

1.2020年度 上期決算総括	P 3
・2020年度 上期実績	P 4
・2020年度 通期業績予想	P 5
・中間配当・期末配当予想の修正	P 6
・2020年度 下期業績予想	P 7
・上期概況・下期計画	P 8
・筋肉質な経営体制への変革	P 9
2.補足資料	P 10

※（参考）弊社WEBサイトから次の資料をご覧ください

- ・決算補足資料：為替レート・事業別実績概要・事業別/所在地別実績表・主な指標 など
- ・IR参考資料：エリア別新型コロナウイルスの影響について・主要製品群の販売推移・原料相場推移 など
- ・(参考)上期トピックス：新型コロナウイルス禍での人的資本の保護・上期ニュースリリーストピックス





新型コロナウイルスと対峙する医療従事者への
チョコレートの寄贈（ブラマー）

1.2020年度 上期決算総括

CEO 清水 洋史

2020年度 上期実績

■ 2020年度 上期連結業績

(単位：億円)

	2019年度 上期参考値*	2020年度 上期実績	前年同期比	2020年度 上期計画	計画比
売上高	1,885	1,726	▲159	1,550	+176
営業利益	94	73	▲20	55	+18
経常利益	84	68	▲16	49	+19
親会社株主に帰属 する四半期純利益	60	43	▲17	27	+16

*2020年3月期の決算期変更を行った海外グループ会社19社の決算期を、2019年4月1日-2019年9月30日の6ヶ月間として調整した金額

■ エリア別上期営業利益

(単位：億円)

	2019年度 上期参考値*	2020年度 上期実績	2020年度 上期期初計画
日本	80	63	61
米州	▲3	15	▲3
東南アジア	13	5	7
中国	11	7	8
欧州	9	2	4
グループ 管理費用	▲18	▲18	▲22
合計	94	73	55

■ 上期業績ポイント（営業利益）

✓ 計画比 営業利益+18億円

- ・期初計画に織込んでいなかったブラマーのカカオ先物評価益の影響+13億円。
- ・リアル安の加速により、赤字のハラルドの取込み損失の減少効果+4億円。
- ・新型コロナウイルスの影響(営業利益▲39億円)はほぼ計画通り。

✓ 米州、欧州を中心に影響が大きく現出

- ・日本の減益幅は▲20%に留まったが、海外は大幅に減少。
- ・特に米国、ブラジル、欧州では新型コロナウイルスの影響が大きく現出。

2020年度 通期業績予想

■ 2020年度 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2019年度 実績参考値*	2020年度 修正業績予想	前年同期比	2020年度 期初予想 (2020年5月12日)	修正額
売上高	3,837	3,600	▲237	3,700	▲100
営業利益	215	165	▲50	193	▲28
経常利益	203	153	▲50	178	▲25
当期純利益	147	100	▲47	115	▲15

*2020年3月期の決算期変更を行った海外グループ会社19社の決算期を、2019年4月1日-2020年3月31日の12ヶ月間として調整した金額

■ 通期業績予想ポイント（営業利益）

✓ 下期にも新型コロナウイルスの影響を織込み、営業利益を165億円に下方修正。

期初予想：下期には新型コロナウイルスの影響を織込まず作成。

修正予想：下期にも新型コロナウイルスの影響を織込み作成。

期初予想比で営業利益▲28億円、当期純利益▲15億円下方修正。

中間配当・期末配当予想の修正

- ✓ 業績見通しの修正を反映し、52円へ減配（中間26円・期末26円）
- ✓ 配当性向は44.8%

年度	中間	期末	年間計	配当性向
2019年度 実績	27円	29円	56円	29.4%
2020年度 期初配当予想	29円	29円	58円	43.4%
2020年度 修正配当予想	26円	26円	52円	44.8%

参考）配当方針

- ・ 配当性向30%～40%
- ・ 安定的かつ継続的な配当を実施

今年度の配当に関する考え方

- ・ 新型コロナウイルスの影響は一過性だが収束時期が不透明の為、配当額を見直し。
- ・ 一方、経済が回復すれば成長軌道に戻ると考えている為、配当性向は期初予想からは大きく変更せず。

2020年度 下期業績予想

■ 2020年度 下期連結業績予想

(単位：億円)

	2019年度 下期参考値*	2020年度 下期修正予想	前年同期比	2020年度 下期期初予想	期初予想比
売上高	1,952	1,874	▲78	2,150	▲276
営業利益	121	92	▲29	138	▲46
経常利益	119	85	▲34	129	▲44
当期純利益	87	57	▲30	88	▲31

*2020年3月期の決算期変更を行った海外グループ会社19社の決算期を、2019年10月1日～2020年3月31日の6ヶ月間として調整した金額

■ エリア別下期営業利益修正予想

(単位：億円)

	2019年度 下期参考値*	2020年度 下期修正予想	2020年度 下期期初予想
日本	95	76	88
米州	23	19	37
東南アジア	12	11	19
中国	7	6	11
欧州	6	2	6
グループ 管理費用	▲21	▲22	▲23
合計	121	92	138

■ 下期業績予想ポイント（営業利益）

✓ 新型コロナウイルスの下期への影響を主因に、下期営業利益予想を92億円へ修正。

- ・新型コロナウイルスの影響額▲23億円と想定（日本▲12億円、米国▲4億円、欧州▲4億円、ブラジル▲3億円）
- ・東南アジア、中国：下期伸長計画を見直し、前年並みの水準へ修正▲12億円。
- ・米国（ブラマー）：新型コロナウイルスによる生産面の制約によるコスト上昇▲6億円。
- ・ブラジル（ハラルド）：レアル安による取込み利益減少▲3億円。

上期概況・下期計画

■ コロナ禍での対応

- ・**感染拡大防止**：各国工場内のクラスター発生はゼロ。自社要因での機会ロスは最小限に。
- ・**マーケットの変化に合わせた施策の遂行**：ハラルドでのチョコフィリング拡販や、中国でのWEB講習会を活用した新製品のヒット、日本での健康ニーズを捉えた大豆たん白素材の拡販。
- ・**経費削減**：期初計画比、上期実績▲25億円、下期計画▲15億円。

■ 日本

＜市場環境＞

- ・上期は外食・土産向けの数量減少を主因に減益も、同市場向け販売数量は緩やかな回復基調。
- ・下期は外食・土産向けの数量が前年割れの水準で推移することに加え、前期4Qの巣籠り需要の反動を想定。

＜大豆たん白素材の堅調な販売＞

- ・健康栄養需要の高まりにより、大豆たん白素材（粉末・粒状大豆たん白）の販売数量が増加。
- ・粒状大豆たん白新工場が7月に稼働し、生産能力は従来比150%に。積極的な販促活動を実施。

■ 海外

＜米州＞

- ・ブラマー：高付加価値品やコンパウンドチョコレートの拡販に注力。
- ・ハラルド：フードサービス市場で好調のチョコフィリングの拡販。中長期的な事業拡大に向けた第2工場の検討。

＜東南アジア＞ 新興国の景況感改善に遅れが見られるが、油脂・チョコレートの拡販を進める。

＜中国＞ ブラマー上海との連携や、品質で差別化された製パン素材の拡販に注力。

＜欧州＞ 中小メーカー向けのチョコレートの販売堅調。新規顧客開拓を継続。

筋肉質な経営体制への変革

- ✓ 新型コロナウイルスによって、世界は急速に変化
E S G経営によるバックカスティングで想定していた方向へ

世界の変化

- ・健康・栄養のニーズの高まり
- ・サステナビリティの意識向上
- ・コミュニケーション手段の変化

不二製油グループの変化への対応事例

日本	植物性たん白の需要増。新工場で需要に対応。
東南アジア	人権や環境に配慮したパーム油調達が評価を受け、幅広い顧客と商談が進行中。
中国	WEB講習会の動画配信によりヒット商品創出。

- ✓ 変化を着実にビジネスに繋げていく為に、より筋肉質な経営体制を目指す

固定費削減

- ・ブラマー
省力化投資の着実な実施

投資の厳選

- ・ハラルド
市場拡大の為に供給能力アップに向けた第2工場検討

ノコア事業の ポートフォリオ入替え

- ・インド クリーム事業
2020年度上期にEXIT実行



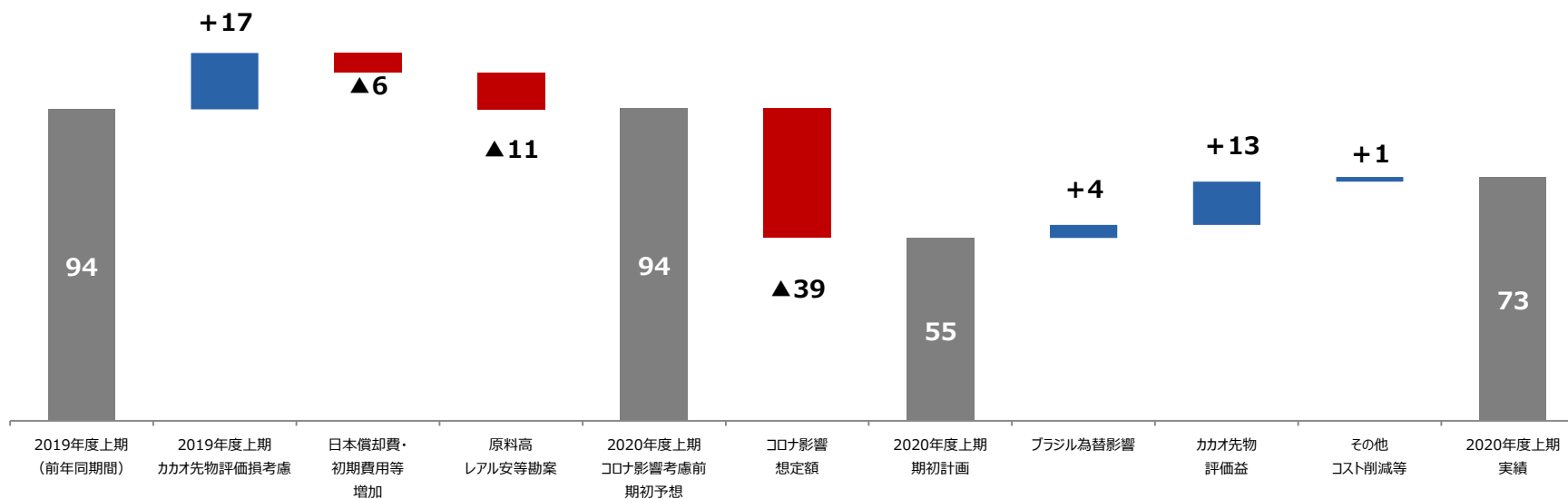
新型コロナウイルスと対峙する医療従事者への
チョコレートの寄贈（ハラルド）

2.補足資料

営業利益増減分析（上期実績）

■ 上期実績（対前年・対期初予想）

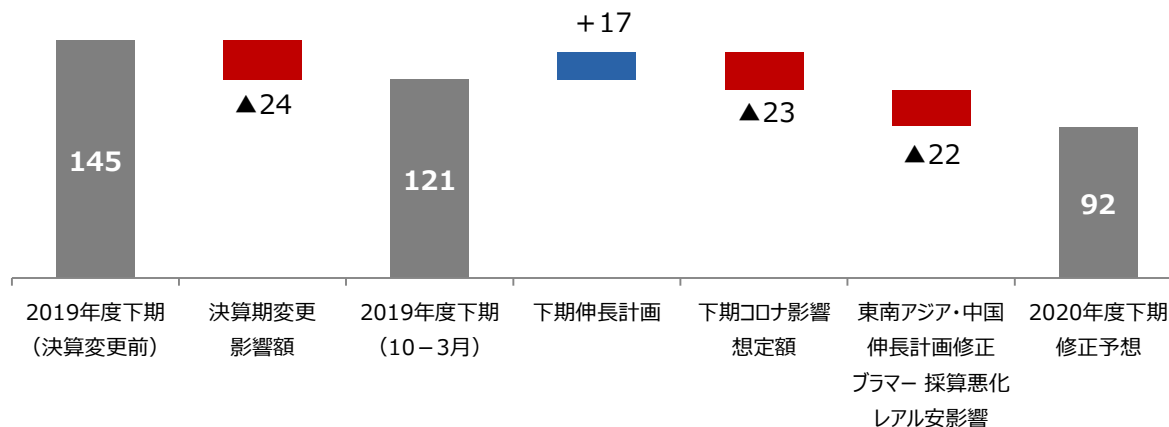
（単位：億円）



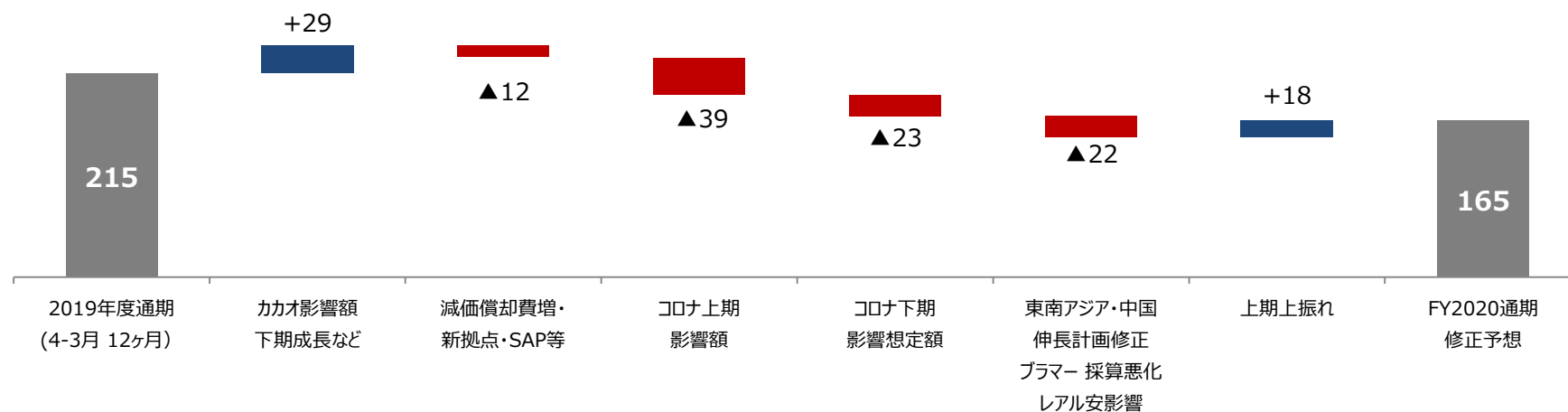
営業利益増減分析（業績予想 下期・通期）

■ 下期予想（対前年）

（単位：億円）



■ 通期予想（対前年）



上期概況

土産需要の減少

- ・チョコレート、乳化・発酵素材の販売数量減少。
- ・土産向けチョコレートは回復傾向。（図参照）

外食（カフェ）向け販売減少

- ・乳化・発酵素材を中心に数量減少も、2Qは緩やかに回復。

健康需要の高まりの加速

- ・大豆加工素材（粉末状・粒状）は堅調に推移。
- ・粒状大豆たん白新工場が7月に稼働開始しキャパシティ不足は解消。

下期見通し

粒状大豆たん白の拡販

- ・新工場が7月に稼働開始、積極拡販体制が整う。

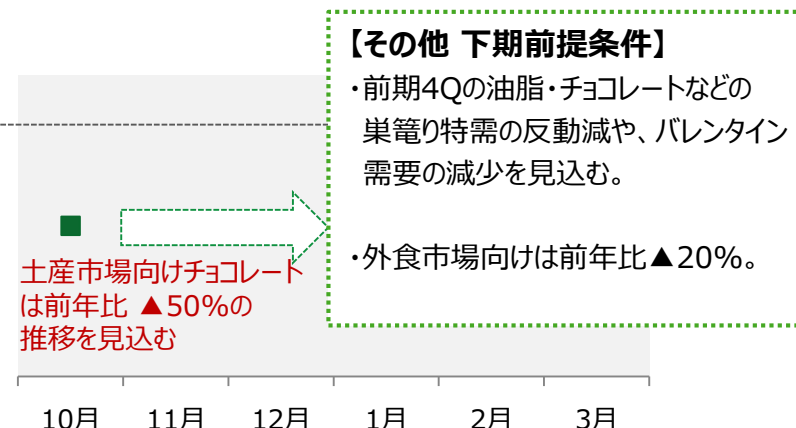
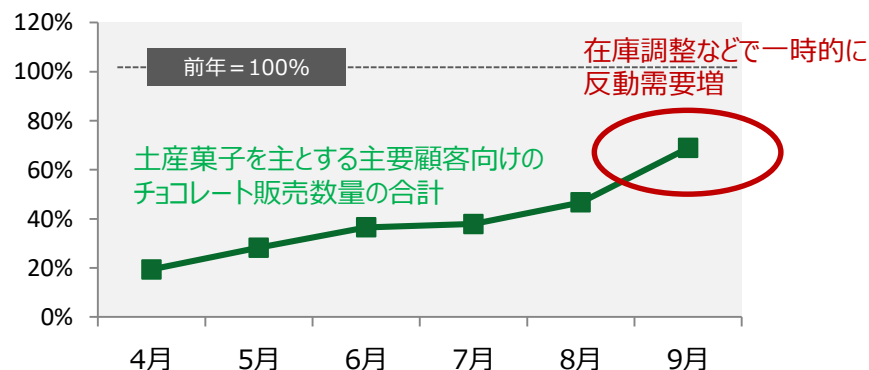


健康・サステナビリティへのアプローチ

- ・健康訴求型チョコレート(高たん白等)の積極提案。ドラッグストア等、拡販余地のある業態へ注力。
- ・植物性素材をベースとした差別化された製品により多くの顧客との取組みが進む。



2020年度 月別販売数量推移(前年比)



上期概況

感染拡大の防止に注力

・稼働継続により顧客への安定供給に尽力。



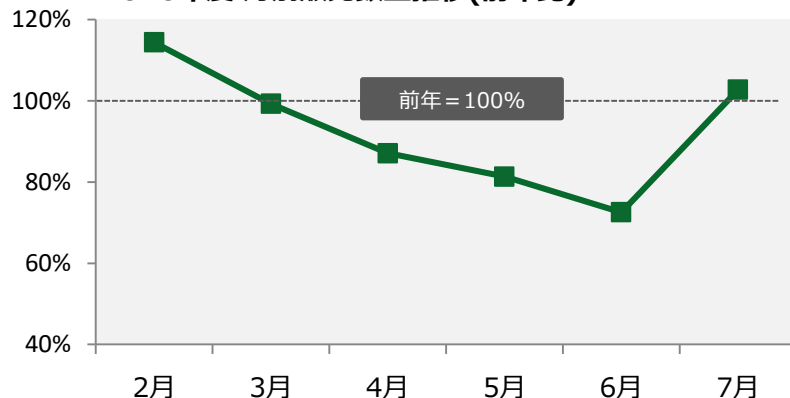
新型コロナウイルスの影響

・1Qの販売数量は前年水準も、2Qに入り影響が本格化。
・7月の販売数量は前年水準まで回復、8月以降は前年並みに推移。

人手不足は解消

・生産性改善に向けた設備投資は継続して実施。

2020年度 月別販売数量推移(前年比)



下期見通し

生産性改善の継続

・省人化設備の導入に着手、修繕費等の経費削減。

生産コスト上昇

・新型コロナウイルスによる生産面の制約によるコスト上昇。

需要を刈り取る拡販に注力

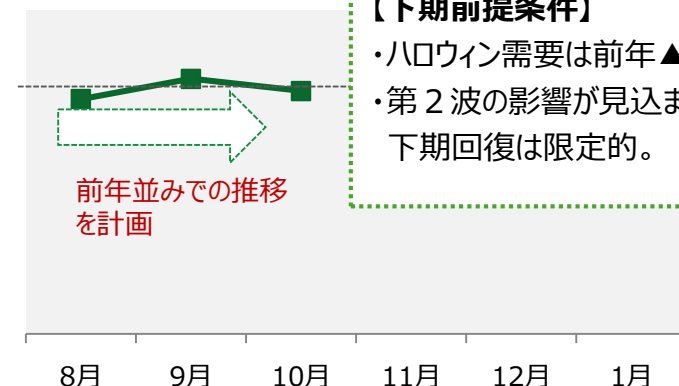
・シュガーレスチョコ等の付加価値製品群に加え、
コンパウンドチョコの拡販にも注力。

カカオ先物評価の営業利益への影響

・3Q：▲2億円、4Q：織込まず
・伊藤忠商事とのカカオ豆の購買スキーム*1により、
影響は縮小傾向。

【下期前提条件】

- ・ハロウィン需要は前年▲10%程度。
- ・第2波の影響が見込まれ、
下期回復は限定的。



上期概況

1Qは移動規制が大きく影響

- ・特にフードサービス、菓子材料専門小売店が大幅に減少。
- ・2Q以降は回復。（図参照）

市場創出

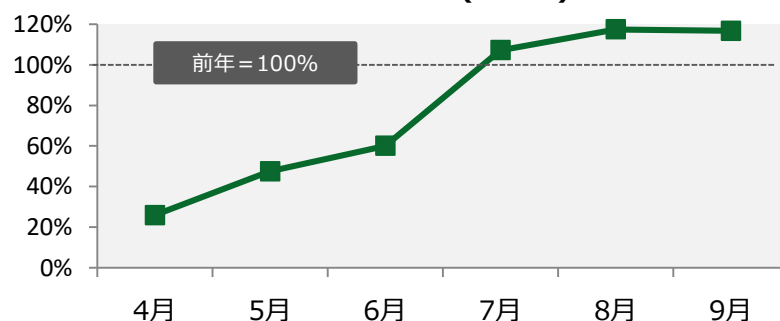
- ・外食向けのチョコフィリングが好調に推移。



収益性は悪化

- ・経費削減は進むも、レアル安による仕入れコスト上昇。

2020年度 月別販売数量推移(前年比)



為替推移（ブラジルレアル/円）

* 連結決算換算使用 累計期中平均レート

FY2019 1Q : 29.23	2Q : 28.64
FY2020 1Q : 20.00	2Q : 19.87

下期見通し

販売数量は下期も前年同期並みを見込むが、
レアル安による原材料コスト増の影響継続

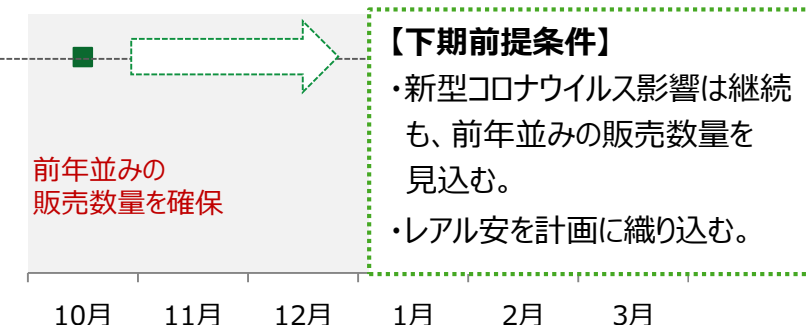
新規販売チャネルの開拓

- ・少量包装品のラインアップ拡充。



市場創出の継続

- ・アイス用素材の新製品拡販。
- ・チョコフィリングの拡販。



3Q : 28.12	4Q : 27.07
3Q :	4Q : (想定) 19.93

主要事業会社概況 フジオイルアジア（東南アジア）

上期概況

新型コロナウイルスの影響による数量減少

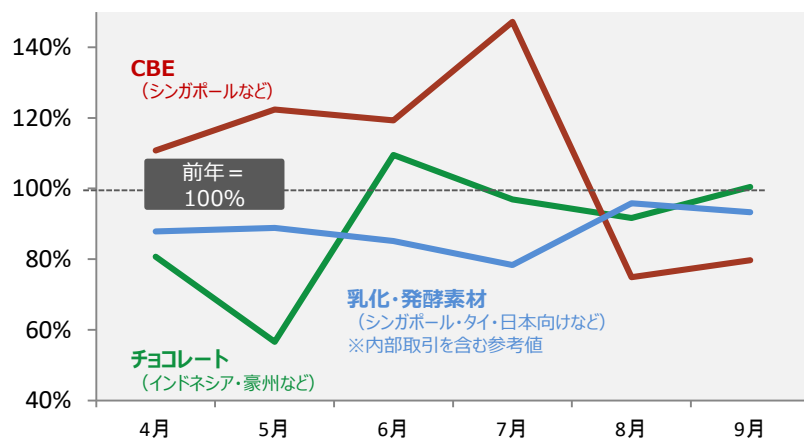
業務用チョコレート

- ・外出規制の影響を受け減少。主要展開国のインドネシアでは、アイスや菓子パンを外出先で消費する傾向があるため、需要減少が影響。

乳化・発酵素材

- ・日本の土産・外食需要の減少により、日本向け調製品の販売数量が減少。
- ・ショッピングモール等の閉鎖により、デザート需要が減少し、クリームの販売数量が減少。

2020年度 月別販売数量推移(前年比)



下期見通し

業務用チョコレート

- ・インドネシアでは外食向けは苦戦を想定も、家庭での菓子作りをターゲットとした少量包装品の展開や、一般菓子向けの拡販を計画。



- ・豪州は外食業界への販売比率が低く、コロナの影響は軽微。下期も拡販を継続。

乳化・発酵素材

- ・新規市場・新製品拡販を計画するも、営業活動制約により下期見通しを引下げ。
- ・経費削減、コストダウン施策を継続。

【下期前提条件】

- ・インドネシア：外食市場は前年を下回るも徐々に回復。ホームユース需要は増加傾向。
- ・マレーシア：外食、観光需要は前年を下回り推移。
- ・豪州：外食需要は低迷も、内食需要は堅調に推移。

10月 11月 12月 1月 2月 3月

上期概況

乳化・発酵素材

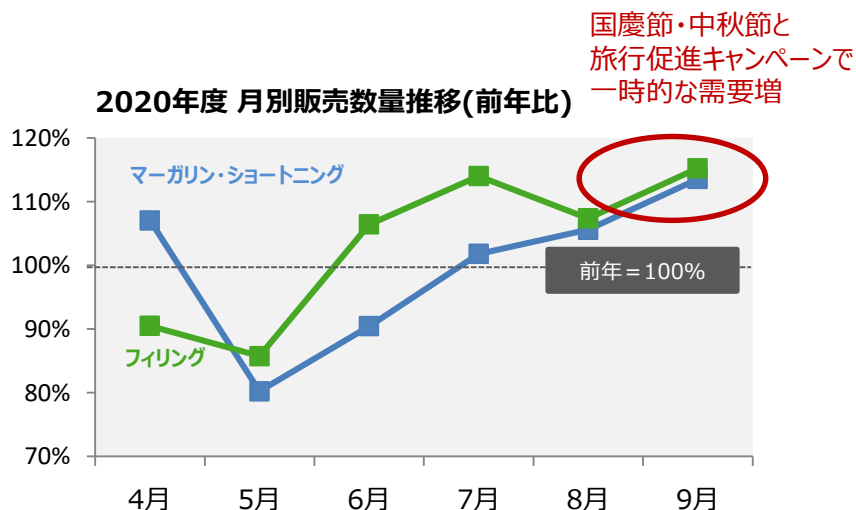
- 消費が低迷し、1Qはパン市場の需要も減少
- 2Qは回復。国慶節の需要増加も影響。

- ネットでの講習会の配信等でのヒット商品の創出や、ブランド価値向上施策により製パン製品が増加。



業務用チョコレート

- ブラマー中国事業との協業での拡販体制構築。



下期見通し

乳化・発酵素材

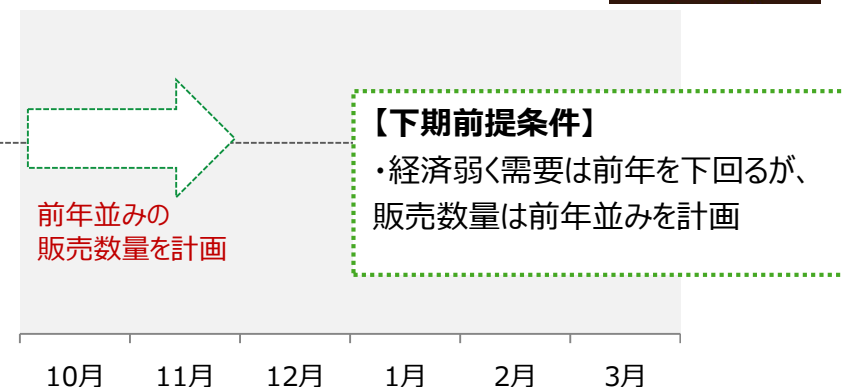
- マーガリン、フィリングの付加価値製品の開発・拡販。

- 市場への普及方法の多様化により、新販路の拡張を推進。



業務用チョコレート

- 張家港、ブラマー上海の2工場を活用した生産の最適化、両ブランド戦略の遂行。



上期概況

植物性油脂

- ・ロックダウンの影響で、主要顧客向けチョコレート用油脂の販売数量が減少。

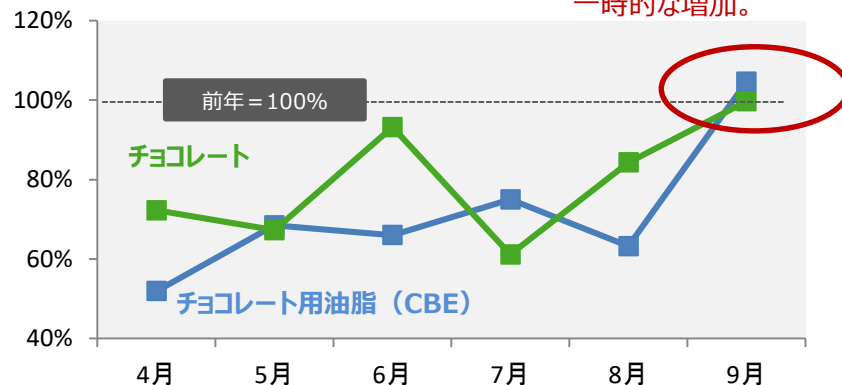
業務用チョコレート

- ・高級土産、外食向けの販売数量が減少。

※フジオイルヨーロッパが展開しているマーケットは、土産向けの高級品が中心。新型コロナウイルスによる観光産業の打撃の影響が大きい。

夏のロックダウン緩和影響や、クリスマス需要向けの作り溜めによる一時的な増加。

2020年度 月別販売数量推移(前年比)



下期見通し

チョコレートの拡販

- ・新規顧客へのチョコレートの拡販に注力。

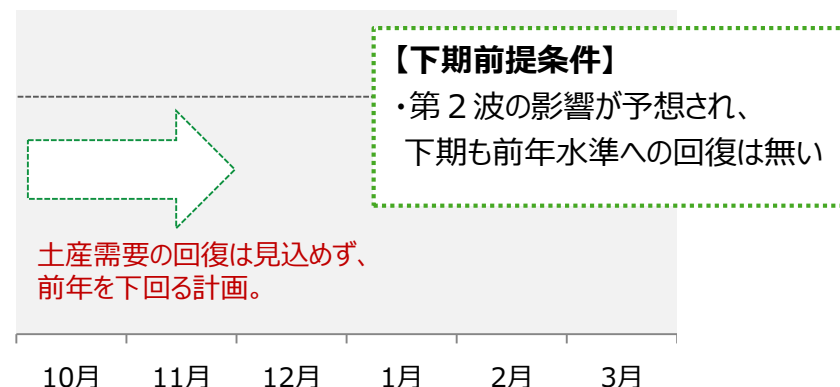


コスト抑制

- ・新型コロナウイルス関連費用の抑制。

サステナブル製品の展開

- ・サステナブル原料調達の強みを活かした顧客との取組み継続。





 **不二製油グループ本社株式会社**

